

## 元 CIA の私の達した結論：この国に CIA は要らない

【訳者注】ここから推測できることがある——おそらく CIA は、かなりの不満によって内部爆発寸前ではなかろうか。トランプ大統領によって最も動くのは CIA に違いない。自分の元の職場を告発する CIA 退職者の講演のユーチューブもあり、2 年余り前のものだが、ある退職者の次のような手記もある——

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/141217.pdf>

この写真通りに、ムキになっているのがブレナン CIA 長官であり、笑っているのがトランプである。ブレナンの切り札らしい、モスクワでのトランプの“娼婦の小便”事件は面白い。これは、選挙前の彼の「CIA の拷問はやめる気はない。水責めなんぞは生ぬるい、俺ならもっと恐ろしいのをやる」と言った発言と共に傑作である。なぜこれを報道しないか？ 更衣室で女性蔑視の発言をしたことが大統領選の争点になるなら、これも取り上げるべきだ。ただしこう付け加えよ——ブレナンは、犬の糞でなく、娼婦の小便で仇を取った、と。

ところで就任式が明日に迫った。アメリカの代替ニュース報道では、州兵や海兵隊が、1 万人規模で出動して警護に当たるという前代未聞の事態から、暗殺計画がかなり確かなものだとわかる、と言っていた。暗殺は防げたとしても、内乱のきっかけになる可能性は、かなり高いのではないだろうか。

John Kiriakou

January 17, 2017



John Brennan

Donald Trump

(ジョン・キリアコウは、元 CIA 対テロ職員、上院外交問題委員会の元上席調査官であり、「スパイ行為法」——スパイを罰するための法律——のもとで、オバマ政権によって起訴された 6 番目の警告者になった。彼は、ブッシュ政権の拷問計画に反対しようとした結果、23 か月の禁固刑を受け、服役した。)

次期大統領ドナルド・トランプは、CIA 長官ジョン・ブレナンを、自分についての“フェイ

ク・ニュース”の根源だとして非難している。特にブレナンは、我々の新しい優秀なリーダーを、ロシアの下僕と呼び、彼が数年前にモスクワのホテルの部屋で、ロシア情報部のカメラの前で、性的な kink（変態行為）に参加したとして非難している。

私はトランプが 2010 年にモスクワを訪問したとき、オバマ夫妻がかつてそこで寝たという理由で、娼婦たちを雇って、ある「フォア・シーズンズ・ホテル」の大統領用スイート・ルームのマットレスに、小便をさせたかどうかを知らない。そんなことはどうでもいい。私はまた、ロシア政府が、民主党全国委員会をハックして、クリントンの選挙本部長ポデスタの E メールを盗んだのかどうかを知らない。私は、どんな CIA、FBI、また NSA の証拠も見ることがない。だから私は、このハッキングの話は、ホラ話だと個人的には断定している。すべての国家が、お互いにスパイするものだ。それはこの世の事実だ。アメリカは世界中の、ほとんどあらゆる人間をスパイしている。だから、多くの友人や以前の CIA の同僚たちが、ロシアに対してやっているのを見ている私としては、そんなことに義憤を発揮するのは、お門違いだと言いたい。

その上で言うが、ロシアのハッキング物語は、アメリカの政策における CIA とその未来を取り巻く、現実的で重要な諸問題から、注意をそらすためのものである。

それら現実的な問題の一つは、CIA が恒常的に、長い長い年月の間、アメリカ人民を騙し続けてきたことである。なぜトランプは、ブレナンが“フェイク・ニュース”を飛ばしているとあえて断言したのか？ それは過去 15 年間、CIA は、囚人を拷問し続けてなどいないと主張したからである。それはウソだった。CIA は、秘密の牢獄をある群島に作って、無実の市民を含む、何百人もの囚人を収容などしていないと言った。それはウソだった。CIA は、アフガニスタンに、Salt Pit（塩の穴）と呼ぶ地下牢の拷問センターを作り、利用したことはないと言った。それはウソだった。CIA は、囚人を第三国に送り、CIA 本部からの合図一つで、拷問を実行していたことはないと言った。それはウソだった。CIA は、上院諜報活動特別委員会の調査団が、CIA の拷問プログラムについて決定的な報告書を書いているときに、そのコンピューターにハックしたことはないと言った。それもウソだった。

私は、CIA が、外国の政府を転覆させ、その選挙を左右し、暗殺し、また他の形で、1940 年代以来、アメリカの外交政策を引っかき回したことがないと抗議している問題については、入っていく気さえない。

私はドナルド・トランプのファンではない——全然。しかし彼が情報局共同体 [17 あると言われる] について苦情を述べる時、彼は的確で重要な点を突いている。トランプは最近、CIA は増長し無能になっていると言ったが、それは正しかった。彼が、CIA は経費を削減

し、再構成すべきだと言ったのは正しかった。

第一に、あと数日でジョン・ブレナンが職を解かれることは、国家にとって良いことだ。ブレナンは CIA にとって、災難でしかなかった。彼の 2 年前の、軽率な、この部局の“構造改革”は、地理的な区分けを廃止し、10 の新しい“フュージョン・センター”を作って、行動と分析の仕事の一つにするものだったが、これは浅はかな、行動の経験をもたない者になりがちなり方だった。それは専門知識を希薄にし、CIA を電子機器の盗み聞きに依存させ、人間の能力による情報収集を脇に押しやるものだった。

第二に、どんなに頑張っても、ブレナンは決して、ブッシュ政権の拷問プログラムに関与したことを否定することはできず、実際、できるはずがない。彼は 2001 年から 2003 年まで、ブッシュの CIA 事務次官——この組織の第 4 位官職——であり、2003 年から 2004 年まで、テロリスト脅威統制センターの長官だった。彼は CIA 活動の中心にいて、この部局の最も暗黒だった時代を通じて、反テロリズムに首まで浸かっていた。その当時 CIA の拷問計画があったことを知らないと言ったのは、まったく笑いの種である。

第三に、マイケル・ポンペオ (Michael Pompeo) がどんな CIA 長官になるか、私にはわからない。私は楽観はしていない。しかしそう言った上で、私は彼に、彼の任期中にたった一つのことをしてほしい。それは、拷問計画にかかわったすべての CIA 職員、上院のハッキング・スキャンダルにかかわったすべての職員、監視委員会にニセ情報を提供したすべての職員を追い出すことによって、大掃除をすることである。私の CIA 募集係が 1989 年に私に言ったように、「CIA が求めているのは正直な人間であって、完全な人間ではない。」

第四に、我々は確かに、国家が CIA をそもそも必要としているかどうかを、議論してもいいと思う。私は、それは要らないと考えている。国務省の「情報と研究局」が分析の仕事を行うことができる。国防総省の防衛人的情報諸局 (Defense Humint (= Human Intelligence) Services) が世界中の人間資源を募集し、育成することができる。防衛省や他の多数の文民官庁や部局が、科学技術の発達を受け持つことができる。

しかし一方で、CIA の仕事は単純なものとして残るべきである——秘密を盗むためのスパイの募集である。それができないとしたら、そして CIA 職員の大多数が、バージニア州ラングレーに、座り込んで太るだけだとしたら問題だ。彼らはアメリカの納税者に逆奉仕をすることになる。指導者層は去らねばならない。アメリカ合衆国と国際法に敬意を払わない者たちは、去らねばならない。そのページは 1 月 20 日にスタートすべきである。